

ご存知ですか？

京都に**米軍基地**があることを (NO. 18)

発行:2021年7月15日

京丹後市の「航空自衛隊経ヶ岬分屯基地」の東隣に米軍基地が造られました。ここは風光明媚で、丹後半島を中心に「海の京都」として京都府も観光に力を入れている所です。



米軍基地の所在地

米軍基地建設の経過

2013年2月 日米首脳会談で京丹後市・宇川に「米軍Xバンドレーダー」を配備することを決定。

〃 9月 京都府と京丹後市による「協力表明」

2014年5月 基地工事着工

〃 **12月26日 米軍Xバンドレーダー基地の本格運用開始**

2018年4月～21年5月、米軍人の宿舎建設などの2期工事。



自衛隊基地と米軍基地に挟まれて「穴文殊」の参道がある。

「穴文殊」参道の西には自衛隊基地
(3年かけて拡大強化され2018年3月完成)



「穴文殊」参道の東は米軍基地

2期工事は21年5月に完了。完成した隊舎には軍人が入居します。厚生棟、警衛所なども建設されました



写真は清涼山「九品寺」(通称「穴文殊」)の参道。

参道の両脇には「京都府の自然200選」に選ばれたクロマツの大木が並んでいます。

地元の人たちの信仰のよりどころとして大事にされている「穴文殊」は周囲358度を軍事基地に囲まれてしまいました。

6/16に「重要土地利用規制法」が国会で強行採決され成立しました。ここ経ヶ岬の軍事基地周辺が国の監視範囲に入り、「穴文殊」のお参りも監視され、チェックされる事に。国道沿いの日・米の軍事基地が、住民にとってますます重苦しいものになります。

この米軍基地は、米国の「ミサイル防衛システム」の一環として造られたものです。中国や朝鮮を仮想敵とし、米国に向けてミサイルが発射されたら、そのミサイルを探知し、追尾し、撃墜するための情報をキャッチするXバンドレーダーを配備した、**米国を守るための**、米軍基地です。安倍政権時に国は「日本の防衛のため」と言い、府や京丹後市は「住民の安全・安心の確保は国が約束してくれた」と地元住民を強引に説得して造った米軍基地です。

2期工事に入ると特に、当初の住民との約束を次々と反故にする米軍。米軍の意向を優先して約束違反を受け入れる防衛省。「お願い」するだけの府や市。住民が追及してもなかなか出てこない情報。米軍基地は「地位協定」の壁で守られています。

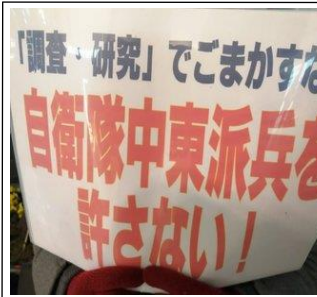
近畿に初めて持ち込まれた米軍基地の実態や、基地を押し付けられた地元の不安や苦悩を知り、「もしも自分の近くに造られたら？」と、自分の問題として一緒に考えてみませんか。

基地や軍備で「平和」は築けません



(米陸軍の広報資料より)

経ヶ岬での日米合同演習 (21年6月)



自衛隊の中東派兵は憲法違反です

2020年1月、政府は「日本船舶の安全確保」を口実に中東へ自衛隊を派兵。国会の承認も経ずに、また1年延長しました。不測の事態が起これば「海上警備行動」を発令するとして紛争地帯への派兵を強行しました。

経ヶ岬から見えてくる、日米軍事一体化への道

「オリエント・シールド21」と命名された陸上自衛隊と米陸軍の最大規模の日米合同軍事演習が6/18～7/11全国をつないで実施されました。経ヶ岬では6/25～7/2の1週間、空砲やドローンも使って共同基地警備訓練と称する日米合同軍事演習が実施されました。コロナ感染拡大防止の水際対策が叫ばれるなか、国外から米軍関係者が各地に入り演習を展開しました。米軍と自衛隊の一体化が進んだ先は、一緒に戦争する道です。



2021・6・22「日米合同軍事演習反対」を叫ぶ。

京丹後を日米の軍事拠点にはさせない!

経ヶ岬の米軍基地は、2018年3月「東アジアの米軍ミサイル防衛戦略司令部」の拠点の1つに編成され軍事的役割が一層高まりました。2020年9月に安倍政権を継承した菅政権も同じく、民意も法律も踏みにじって沖縄・辺野古新基地建設を強行するとともに、「南西諸島」へのミサイル配備の準備を進めています。米国から敵基地攻撃能力を持つ航空母艦やオスプレイなどを大量に購入し、自衛隊の本格的な海外派兵への準備を進めています。21年度の日本の軍事費は10年前の1.8倍の約5兆5千億円にまで膨れ上がっています。経ヶ岬を軍事拠点にするなど、当初の説明と大きく食い違っています。静かで穏やかな経ヶ岬を取り戻しましょう!

米軍基地と住民の「安心・安全」は両立しない

新型コロナウイルス感染症の収束が見通せないなか、政府は「国家的な危機に当たり国民の命と健康を守る」としながらも、経済活動重視で後手後手の感染対策。ワクチン頼みも右往左往の現状に。そんな状況でもオリンピック・パラリンピックは何か何でもと強行する政府。

沖縄や京丹後、そして全国で、米軍基地を感染源とするコロナ感染が広がり、地元住民を不安に陥れました。現行の「日米地位協定」では米軍は日本の検疫制度も免除され、国内外を自由に移動できるし、感染経路や濃厚接触者などの情報も保健所に提供する義務はありません。

今回のコロナ感染問題で、改めて「日米地位協定」の抜本改正の必要性が浮き上がりました。全国知事会は2018年に抜本の見直しを全会一致で政府に提言しています。基地を受入れた京都府や京丹後市の取り組みが問われます。

ウイルスに国境はありません。国と国が軍事力で争って解決できる問題ではありません。

医療体制が充実されてこそ、命は守られます。



経ヶ岬展望台方向から見る米軍基地の「レーダーサイト」

米軍Xバンドレーダー基地反対・京都連絡会

連絡先：京都市上京区四番町121-5 大湾方 TEL/FAX：075-467-4437

E-mail：kyogamisaki2013@yahoo.co.jp

あなたのご意見をお聞かせください